

夢見る力

（原文）

島崎 みちほ（17 歳）

東京都

成城学園高等学校

平和な世界と聞いて、みなさんはどんな世界を想像するだろうか。対立・貧困がなく、人権を侵される人々がいない世界。そんな世界が訪れることを願い、それぞれの問題にアプローチして行動を起こしている人も多い。しかし、私はそもそも「平和な世界を夢見る」こと自体に意味があると思う。社会問題の解決を誰かから進められたり、強制されたりしている場合、そのモチベーションは長く続かない。しかし、能動的・自発的である「夢見る力」はより長く続く。そして、未来を夢見る力こそ若者が持つ最大の力であり、世界平和への原動力になるはずだ。

私は一昨年、日本代表の一員としてアメリカの高校生たちと様々な社会問題について話し合う機会を得た。そこでは参加者全員が自分の理想の未来について語っていた。それを聞いていると、それぞれが創る未来が楽しみになるのと同時に、「私の理想の未来とは何だろう」と考えるようになった。また、皆の理想とする社会を実現するサポートをしたいとも思うようになった。ところで私は、このように自らが校外活動に参加するだけでなく、3 年前から「校外プログラム大全」という団体で活動している。この団体の運営は全て高校生が行っており、高校生向けのサマープログラムやインターン、コンテストなどの情報をウェブサイトを通して発信している。加えて、社会問題の改善のために起業や団体の立ち上げ、研究を行っている高校生にインタビューをした記事も掲載している。例えば、「高校生が設立したミャンマー支援プロジェクト」「起立性調節障害を広める、高校生の活動とは？」など。

言い換えると、高校生の「夢見る力」を記事にして拡散しているのだ。その記事を読んだ別の高校生が触発され、自ら行動に出る場合もある。発信することで、夢をもたない若者にも影響を与えることができる。

私はこれらの体験から、自分の考える未来についてオープンに話すことの大切さを感じた。自分の夢を他者に話し、アドバイスをし合い、励まし合うことで「その夢を実現しよう」という気概がより強くなるのだ。このことは、話し相手が一人いる、もしくはインターネットに接続できる環境であれば誰でも体験することができる。自分の考えを話すことは勇気のいることだが、一歩踏み出せば自分の周囲はもちろん、地球の裏側の人や全く興味が無かった人さえ動かすことができるかもしれない。この可能性を若者が認知することで「夢見る力」がより多くの若者に伝播していくのではないだろうか。同じ夢を持った若者同士が集まれば、それは若者の世論として社会に伝わり、社会が動くかもしれない。

これらを実現するには、より多くの若者の「夢見る力」を拾い上げること。また、夢を実現しようとする若者が挫折しないようにすることが必要である。こういった若者への働きかけは、政府や大きな組織が行うことももちろん大切だ。しかし、当事者である若者同士でサポートし合うことがより重要である。なぜなら、地域社会や SNS 上では必ずしも大きな組織の方が影響力を持つというわけではないからである。やはり、若者に限らず、人々は同世代の声や応援に共感しやすい。同じ目線で社会を見つめる仲間やロールモデルを多く創出することこそが、夢見る力を広げることへの近道なのだ。

私も、日本という小さな規模だが、これからも多くの若者の「夢見る力」を団体を通して社会に伝えたい。そして、私の夢は、演劇教育で世界中の子どもたちのコミュニケーション力や表現力、集中力、想像力を向上させ、誰もが自分らしく生きることのできる社会を作ることだ。これを実現するために、私自身が「夢見る力」の発信者となり行動を起こしていきたい。